今週の聖書研究ガイドのポイント　　アドベンチスト聴覚しょうがい者友の会

総　題　「永遠の命」

第 10 課　　地獄の火

西村 翔

1．安息日午後

多くのキリスト教会の中で信じられてしまっている、聖書通りとは言えない教えがあります。それは「死んだ後も、魂が地獄または煉獄、あるいは天国で生き続ける」というものです。本当に、永遠の地獄が存在するのでしょうか。私たちは、死んだ後すぐに天国、もしくは地獄（または煉獄）に行かなければならないのでしょうか。

2．日曜日：不滅の蛆

マルコ 9：48 に登場する「蛆」は、死んだ後地獄へ行き、永遠に苦しむ悪人の魂のことだと理解されたりします。しかし、「蛆」は腐敗していく死体に取りつく蛆のことと理解するべきでしょう。また、「蛆」は「尽きることも…ない」とありますが、これは蛆が体を分解するまでその働きをやめない、ということです。つまり、悪人は完全に消えてしまうのです。私たちは、「完全に救われる」か、「完全に消えるか」のどちらかなのです。

3．月曜日：地獄の火

マタイ 18：8 や 25：41 では、「永遠の火」という表現が出てきます。しかし「永遠」という言葉は、聖書では文脈によってさまざまな意味を持つ言葉です。「永遠の火」とは、ものを焼き尽くすまで消えない火のことを意味しているのであり、将来にわたって永遠に燃え続けるのではありません。火が永遠なのではなく、火による結果（つまり、悪人が消えること）が永遠なのです。

地獄において、悪人が永遠に火で苦しめられるのだとしたら、永遠に悪が存在し続けることになります。神様は、人を苦しめるために、永遠に命を与え続けるような方ではありません。

4．火曜日：煉獄にいる聖徒たち

ローマ・カトリック教会の教えに、「煉獄」があります。地獄に落ちるほどではなくても、まだ天国には行けない死者は、煉獄で罪を清め、その後に天国に上ることができるというのです。煉獄での苦しみを軽くするためには、まだ生きている者たちの祈りや行いが重要であるとも言います。

この教えは、聖書の教えに合わないものです。聖書は、「私たちの唯一の仲保者は、イエス・キリストである」（1 テモテ 2：5 参照）こと、「人は死んだ後、罪を悔い改めるチャンスは二度とない」（ヘブライ 9：27 参照）ことを教えて

います。煉獄の教えは、一見魅力的なものかもしれませんが、聖書全体の教えからはかけ離れたものです。

５．水曜日：肉体から離脱した魂のいる天国

多くのキリスト教会の中では、「死んだ人の魂がすでに天国で過ごしている」と信じられています。しかし、使徒言行録2：29、34、25を読んでみると、ダビデは死んだ後葬られたのであり、まだ天国には行っていないことが記されています。死んだ人は墓の中で無意識のうちに、終わりの日の復活を待ちます。そして、やがて終わりの日に、永遠の命が与えられ、天国で過ごすようになるのです。

６．木曜日：聖書の視点

ヨハネの手紙一5：12にあるように、「御子（イエス・キリスト）と結ばれている人」にのみ、永遠の命が与えられます。キリストと結ばれていない人には、与えられません。永遠の命は、イエス・キリストを通してのみ与えられる神のプレゼントであり、終わりの日の復活の時に実現するものです。

７．金曜日：さらなる研究

たとえ自分は天国に行けたとしても、愛する家族や友達が地獄で永遠に苦しんでいる姿を見ることは、どれだけ苦しいことでしょうか。そこは、天国とは言えないのではないでしょうか。

★私たちが永遠に生き続ける場所は、ただ一つ天国です。天国の何が楽しみですか？